

次の文章は、高校生の「浜野理名」が母親と夕食をとる場面です。「理名」は反抗期を迎えて、母と顔を合わせないように自室で過ごすことが多くなっていました。これを読んで、(1)～(6)に答えなさい。

ママお弁当を作るの、やめる。

浜野理名の母親、麻耶がそう宣言したのは、節分が終わってからだ。

父親が上海に単身赴任し、兄の大知が進学とともに家を出て、理名と母の二人暮らしはもうじき三年目にさしかかる。フルタイムで働きながら家事をこなしている母に感謝しているし、手伝おうと思うものの、理名は、なかなか感謝の言葉は言えず、実際に手伝ったりもしていない。だって忙しいんだもん、と理名は言い訳のように思う。勉強もしなくちゃだし、友だちづきあいもあるし、好きな人とどうすれば両思いになれるのか悩んでもいるし、進路のことも考えなきゃいけない。それに最近、母と話すのもおっくうなのだ。すぐに意見されるし。

「ママはがんばりすぎた、理名のこともかまいません。このままでと理名はなんにもできない人になっちゃう。なんにもできない人は、男でも女でもまったくもてない時代なのに」と、夕食を食べながら母は言う。「だからママ、明日からお弁当やめる。自分で作ってもいいし、何か買ってでもいいよ」母はそう言って、食べ終わった自分の食器を下げて、洗わず、テレビの前のソファに座り、このところはまっているらしい韓国ドラマを見始める。理名は居心地の悪い思いで食事を終えて、食器を下げ、母のふんといっしょに洗って水切りかごに入れた。

そんなふうには言っても、でも何か、かんたんなものを用意してあるだろうな。翌朝目覚め、そう思いながら階下に行くと、驚いたことに母はもういなかった。お弁当もなく、冷蔵庫を開けても作り置きのおかずもない。冷凍庫にも、お弁当に使えるような冷凍食品もない。

「マジか」思わず理名はつぶやく。時計を確認し、「マジか」もう一度つぶやいて、速攻で制服に着替え、髪を整え、泣きそうになりながら寝癖をなおし、通学鞆にノートや教科書を詰めて、ガスの元栓と鍵が閉まっているかを確認して家を飛び出す。

コンビニエンスストアのサンドイッチを食べながら、理名は萌衣や玲佳の弁当を盗み見る。

「いいなあ、うちなんか、ママが弁当ストライキ起こして、今日から作らないんだって」と言うと、

「え、私、高校入ってからずっと自分で作ってるよ」と萌衣が言い、

「マジで？」理名と玲佳は声を揃えた。あらためて萌衣の弁当を見る。ブロッコリーとチーズのサラダ、プチトマト、じゃこ入り卵焼き、ウインナーと肉団子。「これだけ冷食」と萌衣は肉団子をお箸で指す。なんにもできないとまったくもてない時代になるといって、母の声が理名の耳によみがえる。

「わかった、私もがんばる！」理名が言うと、

「私もやってみようかな」玲佳もぼつりと言う。

お弁当作りは面倒くさいけれど、理名は昼休みが俄然たのしくなってきた。理名と玲佳と萌衣、ずっといっしょにお弁当を食べている三人で、自作弁当を見せ合うのだ。

弁当歴がそろそろ一年になる萌衣は、さすがに彩りも栄養もいい模範的弁当だ。理名といっしょにお弁当作りをはじめた玲佳はぶつとんでいて、

ジャーにスープとごはんを入れた「リゾット弁当」やごはんをコロッケとたくあんだけをのせた「コロッケ丼」を作ってくる。彩りも栄養も偏りも無視した、でもなんだか肝が据わった感じのお弁当に、理名はすっかり感銘を受けている。

二人からアイディアをもらい、理名は、冷食の焼売シウマイを使った中華弁当を彩りよく作ってみたり、前日のおかずの肉団子と野沢菜と炒り卵をごはん④でツツんだ巨大おにぎらずを作ってみたりしている。三人で机をカコみ、いっせいの、せ！でお弁当を広げる。歓声が上がり、感嘆のため息が漏れ、「納豆丼なんてなしかな」「おいがね」「納豆オムレツならいいんじゃない？」などと、アイディアを出し合いながら自作弁当を食べる。お昼休みが前よりだんぜんたのしくなった。

夕食後、残ったカレーを小鍋に取り分けている理名に気づいた母が、

「それ、どうするの？ 朝ごはん？」と訊く。

「ジャーに入れてカレー弁当にする」と答えると、

「へええ、斬新ね」と目を丸くしている。

「玲佳って友だちがいるんだけど、おとなしいのに、おっかしなお弁当持ってくるんだよね。今日なんかつけ麺だよ。スープをジャーに入れてお弁当箱に麺と葱とチャーシュー詰めて」

「ええっ、そんなのあり？」(中略)

「今はほら、なんでもありの時代だから」理名は母親の言葉をまねて言う。「今度ママにも作ってあげるよ。私の巨大おにぎらず、インパクトあって、玲佳と萌衣に褒められた」

「う、うん、ありがとう」母は言い、テレビの前に向かう。

働いて家事をして、夫とは離ればなれで、唯一のたのしみは韓国ドラマらしい母親にも、自分と同じような高校時代があったのかと思うと、理名は不思議な気持ちになる。そうしてふと、自分もいつか母親くらい年をとるのだと気づく。年齢を重ねていくにつれて、仲良し三人でキヤーカー騒ぎながらお弁当を食べている今の時間が、泣きそうなくらいなつかしいものになるだろうと確信するようになる。だとしたら、この先ずっと、私も玲佳も萌衣も、ぜったいに忘れられないようなお弁当を作っていると、理名は奇妙な意欲に燃える。あーあ、ますます忙しくなっちゃう。理名はつぶやき、夕食後の食器を洗いはじめる。

(注) フルタイム——就業場所における勤務時間の始まりから終わりまで働くこと。

冷食——「冷凍食品」の略。

俄然——急に。突然。

ジャー——飲み物やご飯などを入れる保温容器。

おにぎらず——おにぎりのようには握らず、ご飯と具材をのりやラップで平らにくるんだ状態のもの。

(出典) 角田光代『ゆうべの食卓』

(1) —の部分④、⑤を漢字に直して楷書で書きなさい。

(2) 「居心地の悪い思い」とありますが、「理名」が居心地の悪い思いをした理由を説明した次の文の X、Y に入れるのに適当なことをばを、

X は二字で文章中から抜き出して書き、Y は十五字以内で書きなさい。

理名自身が母に対する X の気持ちを表に出せないだけでなく、忙しさを言い訳にしたり意見されることを面倒くさいと感じたりして Y という自覚がある中で、ほぼ一方的に母から「お弁当やめる」と宣言されてしまったから。

(3) 「マジか」とありますが、このようにつぶやいた時の「理名」の心情を説明したものとして最も適当なのは、A、I のうちではどれですか。一つ答えなさい。

A お弁当が無いことや遅刻しそうなことを忘れるほど、昨夜の母のそっけない態度を心配している。

I 母が自分を起こしてくれなかったために寝坊したが、母と顔を合わせなかったことを喜んでいる。

U まだ学校に行く準備をしていないのに、家を出る時間が迫っていることに気づいてあせっている。

エ 母はすでに出かけている上に、お弁当どころか昼食に使えそうな食べ物も無いことに驚いている。

(4) 「玲佳もぼつりと言う」とありますが、この部分で使われている表現技法は、A、I のうちではどれですか。一つ答えなさい。

A 体言止め

I 擬態語

U 倒置

エ 擬人法

(5) 「今日なんかつけ麺だよ」とありますが、「理名」が母にこのような発言をした意図とそれまでの経緯を説明した次の文章の X、Y に入れるのに適当なことをばを、それぞれ二十字以内で書きなさい。

母から「お弁当やめる」と宣言されてしまったが、今では昼休みに X ことが楽しくなった。そのような時、母から「斬新ね」と言われたことに対して、今までのように面倒くさがることなく Y を母に紹介した。

(6) この文章の表現の特徴について説明したものと最も適当なのは、ア、イのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 「あらためて萌衣の弁当を見る」という表現は、母がお弁当を作ってくれなくなったことから自分でお弁当を作ろうと決心し、萌衣のお弁当を参考にしようとする理名の熱意を印象づけている。

イ 「納豆丼なんてなしかな」「においがね」「納豆オムレツならいいんじゃない？」という表現は、理名たちが普段から必要最低限の会話しか交わしていないという、複雑な人間関係を強調している。

ウ 「今度ママにも作ってあげるよ」という表現は、これまで色々なことを母任せにしていた理名が、お弁当作りをきっかけに自分から料理作りを申し出るといふ、成長した様子を印象づけている。

エ 「理名は奇妙な意欲に燃える」という表現は、母との会話をきっかけにお弁当のおかずのヒントを得たことを喜び、友だちとの思い出になるようなお弁当を作ろうとする理名の決意を強調している。

2

次の文章は、老子のことばの【書き下し文】と【現代語訳】および【解説】です。これを読んで、(1)～(4)に答えなさい。

【書き下し文】

上善は水の若し。水は善く万物を利して而も争わず。衆人の悪む所に処る。故に道に幾し。(中略)
夫れ唯だ争わず、故に尤め無し。

【現代語訳】

すばらしく善いありかたとは、たとえば水のような(自然の法則にしたがった)ありかたである。水はあらゆる生きものに恵みをほどこしながら、しかも(みずからは勝ちをもとめて)争うことがない。たれもがイヤがる(低い)ところにとどまる。だからこそ自然の法則(にしたがったありかた)に近いのだ。(中略)
そもそも(勝ちをもとめて)争うことがなければ、まちがいをしでかすこともない。

【解説】

水は先を争うことなく、高いほうから低いほうへと流れてゆく。その低いところが「利」のない、ひとのイヤがる場所であろうとも、水はイヤがらずに流れてゆく。そういう水のような「㉑」という生きかたをしていれば「尤め無し」だと老子は結論づける。なにしろ争わないのだから、けつしてとがめられることはない——こんなふうに割りきると、ともすれば「事勿れ主義」のようにとられかねない。

㉒ 水は自然の法則にしたがって存在することの象徴である。水は自然の法則にしたがいながら流れてゆくのみであるから、いちいち先を争わず、わざわざ場所をえらばない。とはいえ争わないありかたを主体的にもとめているわけではない。水はすすんで、みずから欲して、そうしているのではない。水はただ自然の法則にしたがって流れたり、よどんだり、たまったりしているだけである。

㉓ 蛇口をひねれば水がでてくる現代の生活とちがい、老子のころのひとにとつて「水の若し」といえば、まずは川の流れがイメージされただろう。孔子は「ゆく者は斯くの如きか。昼夜を舍かず」(『論語』子罕)という。流れてゆくよ、昼となく、夜となく、と。孔子は川の流れにおいて不断かつ不可逆的なありかたをみている。

老子が川の流れになぞらえているのは、けつして逆らわず、文句もいわずに低いほうへゆくという、われこそはといった積極性とはとことん無縁なありかたである。おなじ水をみても孔子と老子とではずいぶん見方がちがう。

(注) たれ——誰。

事勿れ主義——やっかいな問題が起こらず、ただ平穩無事にすめばよいと望む消極的な態度や考え。

(出典 山田史生『哲学として読む老子 全訳』)

(1) 「利」^㉑とありますが、ここでの意味を【現代語訳】から二字で抜き出して書きなさい。

(2) ㉒に入れるのに適当なことばを、【書き下し文】から三字で抜き出して書きなさい。

(3) 「水は自然の法則にしたがって存在する」とありますが、【解説】から読み取れる、老子の考える水のようなありかたの例として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 調べ学習の役割分担で、みんなが難しいと思う課題の担当を頼まれ、自分に与えられた役割だと思い引き受けた。
イ 部活動で自分が主将に選ばれたいと望んでおり、顧問の先生に指名してもらえないように直接お願いをしに行った。
ウ クラスの話し合いで自分の意見とは異なっていたが、自分の立場が悪くならないように多数派の意見に賛同した。
エ 生徒会長として実現したい公約があるので、自分の主張が他の立候補者よりも優れていることを熱心に演説した。

(4) 「孔子と老子とではずいぶん見方がちがう」とありますが、【解説】を読んだ中学生の真希さんは、孔子の言葉を調べて次の【資料】を見つけ、【解説】と【資料】を読み比べて考えたことを【真希さんのノート】にまとめました。これを読んで、①、②に答えなさい。

【資料】

子 川の上ほとりに在りて曰く、ゆく者は斯くの如きか。昼夜を舍かず。

(意味) 先生は川のほとりで言われた。「過ぎゆくものはすべてこの川の流れと同じなのだろうか。昼も夜も一刻もとどまることがない。」
(説明) 一刻もとどまらない川の流れを眺めながら、孔子はこの流れと同様、人も世も自然も不可逆的に推移する時間とともにあり、みずからもまた刻一刻と老いてゆくことを実感する。

(井波律子『完訳 論語』を参考に作成)

【真希さんのノート】

老子と孔子の見方の違い

・老子は、人の「善いありかた」を水や川の流れにたとえ、孔子は、**X**を川の流れにたとえている。
・老子は水に、どんな場所や状況にも対応しつつ、自然体でいられる性質を見出し、孔子は川の流れに**Y**性質を見出している。

① **X**に入れるのに最も適当なことを、【資料】の(説明)から二字で抜き出して書きなさい。

② **Y**に入れるのに最も適当なのはア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 過ぎゆくことも動くこともない
イ 止まることも戻ることもない
ウ 繰り返すことも変わることもない
エ 間違うことも逆らうこともない

3

次の文章は、スポーツ科学研究者である町田樹まちだ たつきが書いた文章の一部です。これを読んで、(1)～(5)に答えなさい。

よくスポーツの世界では、「心技体」という言葉が用いられる。これはすなわち、「精神力」、「技術」、「体力」の三要素をバランスよく鍛えることの重要性を説いている言葉であるが、実のところ、私はこの三つが同列に語られていることに若干の違和感を感じている。というのも、「技術」は「精神力」と「体力」が結びついた結果として生まれるものだと思うからだ。

^Aおそらくあなたも知っているとおおり、心技体の三者関係というのは、往々にして図一のように表わされる。しかし、これではあたかも「心」、「技」、「体」という三つの要素が、それぞれ個別に修練できるものであるかのような印象を受けるのではないだろうか。たしかに、この三要素のうち、「心」と「体」は個別に修練することができるかもしれない。「心」^④だけ磨きたければ、^Bあえて頭脳派になればよいし、「体」だけ鍛えたければ肉体派になればよい。だが、「技」に関してだけは、「心」と「体」の両者がそろわなければ絶対に修練することはできない。(中略)

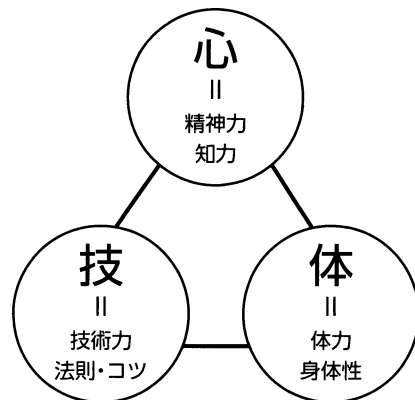
中井正一の技術論を引き合いに出そう。中井は、「技」とは「物事を上手にこなすための法則」のようなものであると述べていた。では、この法則(＝コツ)をつかむためには、どうすればよかつただろうか。(中略)

まず法則をつかむためには、実際に何度もパフォーマンスを繰り返し行なおこって、法則につながりそうな情報を収集する必要があったはずだ。当然、パフォーマンスを行なうためには「体」が必要となるし、情報を収集するのも「体」の各感覚器官である。だが、「体」は法則そのものを探り当てることはできない。最終的に収集された情報を分析して法則を導き出すのは、「心」(知性)の役割だからだ。このように「心」と「体」が結びついてはじめて、「技術」は創造されるのである。したがって、「体」だけ鍛えていても、編み出せる技術にはやはりどうしても限度がある。

^⑤では、実際に「心」を鍛えることで、アスリートはどれほど技術を豊かにできるものだろうか――。たとえば、マラソンランナーが競技中に繰り返し広げるライバルとの駆け引きを想像してみよう。マラソン選手は、集団で競争状態にあるとき、その集団の先頭で走ろうとするのではなく、あえて集団のなかに入り、誰かの真後ろに隠れるようにして走ろうとする傾向にある。なぜなら、他者の後ろにびたりとつく戦術をとることによって、自分の身体にかかる空気抵抗を軽減することができる、より楽に、^Cそして速く走ることが可能となるからだ。

さて、ここであなたに質問があるのだが、このマラソン選手が空気抵抗を減らして楽に速く走るための技術は、マラソンの練習(＝「体」の修練)をするだけで編み出せるものであるだろうか。私は何時間走ったとしても編み出せないと考えている。やはりこの技術(＝法則)は、空気抵抗や抗力に関する科学的知識がないと習得できないだろう。このように知識をつけることでしか発見できない技術もたくさんあるのだ。

私はそのことを大学時代に身をもって学ぶことができた。(中略)



図一 一般的な心技体の図式

大学時代、頻繁にスランプに悩まされており、競技成績も低迷していた私は、藁にもすがる思いでとにかく心理学の授業で学んだ思考法を実践してみたのであった。すると、スランプに陥っている原因を冷静に分析でき、なおかつ無駄なく解決策を探ることができるようになったのである。そして、そのおかげで従来よりも早くスランプを脱出することができたり、あるいは、新たな法則(コツ)を発見する契機にも恵まれるようになった。もし私がその心理学の講義を履修しておらず、アルゴリズムとヒューリスティックの思考法を知ることがなかったら、私はスランプ地獄から抜け出せずに、ただもがき続けるだけの競技人生を送っていたことだろう。

ちなみに、この心理学の授業で体験した出来事は、ほんの一例にすぎない。私は大学在学中、これと同様の出来事を何度も経験し、技術は練習場だけでなく、教室でも修練可能なものであることを学んだのである。

「心」(知性)の鍛錬で面白いことは、一見、競技に関係のなさそうな知識でも、いつどこでどのように役に立つかわからない、ということだ。たとえば、経済学の知識は競技力に直接関係しないかもしれないが、一方で、競技活動を継続させるうえで必要となる資金の調達方法を考案するきっかけになるかもしれない。あるいは文学を学んでも、筋肉を増強させることはできないだろうが、もしかしたら試合に負けて落ち込んでいる自分の気持ちに寄り添い、再び前へと踏み出すための活力をもたらしてくれるような文学作品との出会いがあるかもしれない。だからあなたもぜひ、どのような種類の知識であれ、貪欲に摂取して「心」(知性)を鍛えてみてほしい。そうして「心」と「体」の両方を修練していけば、自然とそのふたつが結び合わさって「技」が育まれていくはずである。

(出典 町田樹『若きアスリートへの手紙——〈競技する身体〉の哲学』)

(注) 中井正一——日本の評論家。日本で初めてスポーツを美学(美の本質を研究する学問)の領域で論じた。

パフォーマンス——演技。

アスリート——運動選手。

スランプ——一時的に調子がくずれ、いつもの能力が発揮できない状態。

藁にもすがる思い——追いつめられたときに、頼りにならないものにも頼ろうとする気持ち。

履修——大学などで授業を選んで学ぶこと。

アルゴリズム、ヒューリスティック——どちらも問題を解決するための考え方や方法。

(1) ——の部分④、⑤の漢字の読みを書きなさい。

(2) ——の部分A～Dのうち、品詞が異なるものはどれですか。一つ答えなさい。

(3) 「では、実際に……だろうか」とありますが、筆者が紹介した具体例について説明した次の文の X、Y に入れるのに適当なことを、X は十五字、Y は五字で、それぞれ文章中から抜き出して書きなさい。

集団で走るときに、マラソン選手が X 走ることが多いのは、Y を根拠に習得した技術を使っているからである。

(4) 「心」と「体」の……は「心」ではなく「体」である」とありますが、これについて、①、②に答えなさい。

① 「技」を育むための「体」の修練と役割についての筆者の考えを説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 法則を見つけるために、競技場だけでなく教室でも心理学や文学といった情報を収集すること。

イ 練習やパフォーマンスを繰り返すことを通して、コツをつかむための情報を収集すること。

ウ 練習を繰り返すことでコツを身につけ、各感覚器官を発達させるための情報を収集すること。

エ 場所や時間に関係なくパフォーマンスを繰り返し、肉体派になるための情報を収集すること。

② 「技」を育むことについての筆者の考えを説明した次の文章の X に入れるのに適当なことを、四十字以内で書きなさい。

「技」を修練することで、物事を上手にこなすことが可能となる。そのためには、「体」の修練と役割に加えて、X という「心」の修練と役割が必要である。

(5) この文章の構成と内容の特徴について説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 冒頭の段落で筆者自身の意見は述べずに「心技体」の一般論の説明のみにとどめることで、読者に当事者意識を持たせている。

イ 筆者の意見を述べる前に他の研究者の論を紹介して反対の立場の意見と比較することで、筆者の主張の優れている点を強調している。

ウ 全体を通してカッコ（ ）を使った言い換えの表現で用語について補足することで、最も重要な要素が何かを明確にしている。

エ 一般論に対する意見を述べた後に競技や体験談といった複数の具体例を提示することで、筆者の考察や主張の説得力を補強している。

四人の中学生が「身近な社会生活について考える」という内容の授業で、班のテーマを「日本の食品ロス」に設定して、クラス発表で課題解決の提案をするために【資料Ⅰ】～【資料Ⅲ】をもとに話し合いをしました。次の【話し合い】を読んで、(1)～(4)に答えなさい。

【話し合い】

康太 そもそも「食品廃棄物」と「食品ロス」って何が違うのかな。

理絵 【資料Ⅰ】によると、「食品廃棄物」は廃棄される食品全般を指し、「食品ロス」は食品廃棄物の中でも、「本来食べられるにもかかわらず捨てられる食品」を指すみたいだよ。だから X は「食品ロス」ではないということだね。

康太 社会問題になるくらい、食べ物がたくさん捨てられているってこと？

理絵 食品が作られてから私たちが食べるまでの間に、様々な場所で捨てられているみたいよ。どの発生場所の食品ロスが多いかは【資料Ⅱ】の数字が大きい所に注目してみたらわかるね。

康太 一番大きい数字は、「食品製造業」の「1411万t」だね。

友子 それは「食品廃棄物」全体の数字だよ。食品ロスの発生量や、食品廃棄物に占める割合といった、「食品ロス」に関する数字に注目しようよ。

健司 「食品ロス」の数字に注目すると、食品卸売業しよくひんおろしうりぎょうの食品ロスの発生量は16万tと他の発生場所より少ないけれど、食品廃棄物の発生量の半数以上を占めているね。また、割合に注目すると、Y ことがわかるね。つまり、スーパーマーケットやレストランを利用する僕たち消費者の行動が食品ロスの問題に影響するんだね。

理絵 【資料Ⅲ】によると、消費者が関係することだけでも様々な要因があることがわかるね。

康太 じゃあ、消費者として食品ロスを解決する方法を提案しようよ。「がんばって残さず食べるように気をつけよう」はどうか？

友子 「残さず食べる」は大事なことだけれど、「がんばる」や「気をつける」だけでは提案として不十分だよ。【資料Ⅲ】の発生要因を解決するための具体的な行動を提案したいね。

康太 ええと、夕食で残ったおかずを次の日のお弁当に入れて食べる、というのは具体的な提案になるかな？

健司 そうだね、そんなふうにできるだけ具体的な行動を提案したいね。どの発生場所に注目するか、資料の大きな数字を根拠として紹介したら、さらに説得力のある提案になりそうだね。

(1) X に当てはまることを【資料Ⅰ】から八字で抜き出して書きなさい。

【資料Ⅰ】食品ロスと食品廃棄物の定義

「食品ロス」は、「本来食べられるにもかかわらず捨てられる食品」と定義されます。

「食品廃棄物」とは、「食品の製造や調理過程で生じる調理くず」、「食品の流通過程や消費段階で生じる売れ残りや食べ残し」といった廃棄される食品をいいます。食品廃棄物には、食品ロスのほか、例えば、魚・肉の骨等の食べられない部分が含まれます。

(消費者庁『令和2年度版消費者白書』及び国税庁酒税課「食品リサイクル法の概要」を参考に作成)

(2) 【資料Ⅱ】から読み取れることとして、健司さんの発言の内容が論理的なものとなるために、Yに

当てはまるものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 食品卸売業では、食品ロスの発生量の割合より、その他の食品廃棄物の発生量の割合が高い

イ すべての発生場所で、食品廃棄物に占める食品ロスの発生量の割合は二分の一以上である

ウ 食品小売業の食品ロスの発生量が、食品ロス全体の発生量の約半分の割合を占めている

エ 食品小売業や外食産業の食品ロス発生量の割合は、食品製造業の食品ロス発生量の割合より高い

(3) 【話し合い】の特徴を説明したものととして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 康太さんは、話し合いが活発になるように、議論の最初に話し合いの目的や手順を示している。

イ 理絵さんは、他の人の意見に反対するときに、資料を用いることで発言の正当性を高めている。

ウ 友子さんは、前の人の発言内容を受けて、着眼点の誤りや発言の不十分な点を指摘している。

エ 健司さんは、発言の根拠として、資料の内容よりも自分が実際に体験したことを重視している。

(4) 「夕食で……食べる」とありますが、これ以外にも「消費者として食品ロスを解決するための提案」を發表することになりました。これについて、康太さんたちが班で話し合った内容を踏まえて、あなたの考えを条件に従って八十文字以上百字以内で書きなさい。

条件

- 1 二文で書き、一文目に、「どの発生場所に着目するか」を、【資料Ⅱ】の内容を根拠とした理由とともに書くこと。ただし、理由を書く際に「最も多い」もしくは「最も高い」という表現を使うこと。
- 2 二文目に、一文目で着目した発生場所において、【資料Ⅲ】の発生要因を解消するための「具体的な行動」を提案として書くこと。

※数値を使う場合は、左の(例)を参考にして表記すること。

(例)	約	20	%
-----	---	----	---

183	万	t
-----	---	---

【資料Ⅱ】発生場所ごとの食品廃棄物と食品ロスの発生量

単位：万 t		
発生場所	発生量	食品ロス
食品製造業	1411	121 (約9%)
食品卸売業	27	16 (約59%)
食品小売業	123	64 (約52%)
外食産業	206	127 (約62%)
一般家庭	783	284 (約36%)

※()内の%は食品廃棄物に占める食品ロスの発生量の割合

【資料Ⅲ】消費者が関係する食品ロスの発生要因

発生場所	要因	販売側の要因	消費側の要因
食品小売業	賞味・消費期限切れ 販売期限切れ	鮮度志向 買い過ぎ	
外食産業	作り過ぎ	急な予約キャンセル 食べ残し	
一般家庭	期限切れ 過剰除去 作り過ぎによる食べ残し		

(【資料Ⅱ】【資料Ⅲ】は消費者庁『令和2年度版消費者白書』から作成)